

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292400148		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム市原五井西		
所在地	千葉県市原市五井西6-2-1		
自己評価作成日	平成27年2月20日	評価結果市町村受理日	平成27年5月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15
訪問調査日	平成27年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様お一人おひとりの要望や意思を尊重したケアを目標に、日頃から個々の利用者様との関わりや個別の外出などに力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新興住宅地の中にある広い敷地にベランダから出られる芝の庭と畑もあるゆったりと過ごせる環境のホームである。法人他ホームと合同の合唱コンクールやホームでの芋煮会などの食行事や毎月の外出・外食行事のほか個別外出支援など多くの行事を実施している。開設1年目にもかかわらず地域との交流にも積極的に取り組み、運営推進会議も機能してサービス向上に役立てている。2年目を迎え、介護支援専門員でもあるホーム長を中心に職員のケアプラン作成と共有・実施意識の更なる向上を図り「入居者一人ひとりの要望や意思を尊重したケア」との目標に向けた個別自立支援をチームとして実践していくことが期待できる。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念は、申し送りや会議時に必ず唱和し共有に努めています。新人職員には、入社オリエンテーションに組み込み、説明しています。	全体会議やユニット会議冒頭に法人の理念と credo を唱和し理解と共有を図っている。ホーム方針として「一人ひとりの意向や思いを最大限に尊重し、心穏やかに自由で生き生きとした日常生活」をして頂けるようチームとして入居者の個別支援をするよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際に、挨拶を交わす。行事の声掛けはしているが、参加していただけていない。自治会に加入しているため、地域の行事案内もあり夏祭りや敬老会には参加しました。	町会総会に出席してホームを紹介させていただいたり、町会行事を紹介頂き、夏祭りや敬老会に参加。地域包括から紹介頂いた認知症カフェランチに参加。ホーム開催の夏祭りには多くの地域の方に参加頂いた。公園散歩時に挨拶を交わしたり、筍を頂いて手づくりおやつをお返ししたりと日常的な付き合いも広がりつつある。	開設1年目から町会長などの協力を得て、地域との交流に積極的に取り組んでいる。今後近隣幼稚園や小・中学校との交流やボランティア等の地域資源活用にも取り組みたいとのこと、更に地域との交流が広がっていくことが期待できる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民の方々に避難訓練などの案内や行事の案内を持参し理解を深めて頂こうとはしたが、現状では活かせていない。運営推進会議で、認知症の方の対応方法などは伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の様子や行事など活動報告をさせていただき、ご家族様からも意見を頂戴しレクリエーションに取り入れるようにしています。また、地域包括職員からの提案で、避難訓練の開催とご家族の参加を勧めて頂き12月に開催した。	市や地域包括職員、町会長・民生委員や多くの家族が参加し、運営状況、職員配置、活動報告など(写真で見えていただく)を議題として2ヶ月に一度定期的に開催している。地域行事を紹介いただいたり、避難訓練についての助言など活発な意見交換が行われ、サービス向上に活かすよう取り組んでいることが議事録から読み取れる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加を頂き、運営状況やホームの利用者様との関わりなどを報告しています。不明な点については、都度連絡し確認するようにしています。	高齢者支援課職員や地域包括支援センター職員に運営推進会議にも出席いただき、議事録も届け、ホームの取組や状況を良く知って頂けている。質問や疑問にも丁寧に応えて頂き、また、入居者の紹介もしていただく等協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内での研修を行い、理解していただけるようにしています。	身体拘束に当る具体的な行為のイラスト入りポスターを目につきやすいところに掲示し常に意識の向上を図っている。不適切なケア防止策などのマニュアルも整備され、ホーム内研修も実施し、スピーチロックも含めて身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の廃止の研修時に合わせて研修を行いました。 1/8		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コンプライアンス、ご利用者の権利や尊厳についての研修を行いました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に読み合わせを行い、一項目ずつ内容の確認をしています。疑問点の有無を確認し、質問の際には再祖の説明にてご理解いただくようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、必ずご家族様にも意見を出して頂くようにしています。各職員にも伝達し、日常のケアに取り入れるようにしたり、ケアプランに落とし込むように心掛けています。	「愛の家GH市原五井西通信」で写真付きの入居者の様子や医療などを毎月送りし家族にお知らせし、具体的な意見や要望を言っていただき易くしている。運営推進会議にも多くの家族に参加頂き、意見や要望をお聞きする機会としており、生活リハビリ導入や温湿度管理などの要望を運営に反映させるようにしている。また、個々の入居者についての要望などについても全体の運営に反映させることがないかを常に意識するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議で、提案をしていたくように働きかけています。月の行事担当や居室担当を設け、各々の企画や提案がスムーズに開催できるようにしています。	毎月の全体会議やユニット会議時を職員からの意見や要望を聞く機会としている。法人の職員アンケートもある。またホーム長と日常会話の中でも意見や要望を伝えている。食器とかトイレカバーなど備品購入や休憩時間や仕事の流れなど職員からの要望や提案を反映させて運営している。月行事担当など担当者が主体となって運営に活すようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行い、個人の思いや希望を聞き取るようにして、助言などを行っています。状況により、勤務体系を考慮したり、社員への昇格も行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	トライアル企画を活用し介護職員初任者研修を受講して頂いたり、会社推薦の外部研修への参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	訪問し意見交換に努めています。また、地域のケアマネジャーや相談員の食事会等に参加し、ホームの見学案内などを勧め来ていただいています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントで訪問した際に傾聴し、出来る限り要望や不安を確認するようにしています。状態や注意点は、早めに職員に伝え入居に備えています。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメントに基づきプランを作成し、入居時に説明しています。入居後の状態を報告し、不安を改善し安心感を持てただけよう努めています。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様の要望したプランを策定するように心掛けています。状態により必要と思われる方には、訪問マッサージの導入や福祉用具の使用もしています。		
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の入居者様の状況や思い、好きな事や得意なことを知るようにして、出来ることは一緒にい行き見守っています。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を勧め、一緒に過ごす時間を作るようにしています。また、ゆっくりとご面会ができるよう環境を整えています。状態の変化時は、必ず報告、相談しご協力をいただいています。		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに入居される前の近所の方などの面会があり、関係を継続できるようにしています。	入居時に特に親しかった方や馴染みの場所等を把握するようにしている。近所の方や元の会社の同僚が面会に来る。床屋や冠婚葬祭に家族と出かける。良く行ったスーパーに個別に買い物に行く。親戚や兄弟との電話や年賀状のお手伝いなど馴染みの関係を継続できる支援に努めている。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の際の席の配慮、家事作業などを一緒に行える環境を作るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去により退去された方のお通夜・葬儀には参列をさせていただきました。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話やケアの中からも意向や要望を把握するようにしています。また、表現が難しい方からは、表情や様子から把握できるよう職員からの情報を含め検討するようにしています。	毎日の生活の中の様子や表情から入居者の楽しいことや好きなことを把握するように心がけている。入浴時やソファでの休憩時など1対1になった時には、なにげない会話や昔話の中から入居者の思いや意向の把握を行っている。気づいた点はそのつど「個人記録」や「ケア日誌」に記入し職員間の共有を図っている。入居時には家族からだけではなく、これまで利用していたデイサービスの担当者との連携を図り入居者の性格や生活状況などのきめ細かい情報収集を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に聞き取るようにしている。サービス利用がある方であれば、ケアマネやデイサービス先などの担当者にも聞き取らせていただくようにしています。家族とも、コミュニケーションを取り面会時に確認させていただいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は、毎日個人ファイルに記録し観察しています。変化時は、朝夕の申し送りにて伝達し把握できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議を活用し、他職員の意見を聞くようにしている。家族には、要望や意向を伺いながら、ホームで把握できたご本人の思いや状況を伝え検討、策定するようにしています。	ユニット会議で短期目標の実施状況や達成度について居室担当者を中心に意見交換を行いモニタリングを毎月行っている。3ヶ月ごとに計画作成担当者がサービス計画実施状況の総括を行い、まとめのモニタリングを実施している。「サービス担当者会議」の前に面会時を利用して家族との話し合いを行い、医師からも往診時に意見を聞いてケアプランに反映させている。	ケアプラン作成に全職員が参加している意識を更に高めるために、「短期目標・サービス内容」を個人ファイルの中に保管し、職員がいつでもケアプランを見られるような工夫が望まれる。また、入居者の現状に即したケアプラン作成のためにもサービス担当者会議への家族の参加を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、個人ファイルへ毎日記録し情報の共有に努めています。職員同士で試みている事については、申し送りノートを利用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の、ご本人やご家族様の状態や状況に合わせ、臨機応変に対応するように心掛けています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際に、ボランティアによる太鼓の披露をして頂いた。頻度が少ないため、今後もっと活用できるよう働きかけて行こうと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、これまでのかかりつけ医を継続するか往診に変更するかは選べるように説明しています。かかりつけ医を継続される場合には、定期受診は家族にお願いしています。緊急時や家族が不可能な場合には、職員が行う事もあります。	これまでのかかりつけ医には家族が付き添い引き続き受診している。月2回の往診時には質問事項を「往診記録」に整理し事前に向診医に伝えている。受診時には職員が同席し処置内容や指示事項を「往診記録」に記載し、「ケア日誌」や「個人記録」への転記により職員間の共有を図っている。状態の変化や薬の変更の際は必要に応じて家族への連絡を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡表を作成し、変化や見て欲しいことについてを事前に連絡しています。こちらの質問に対して所見を記入していただき連携を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、頻回に面会に行き、医師からの病状説明に立ち会わせていただく。担当看護師からも、入院時の様子を確認させていただくようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状では、対象者がいないため契約時の説明しかしていませんが、今後の為に往診医や訪問看護事業所との調整を考えている。	契約時に「重度化した場合の対応にかかる指針」や「看取り介護にかかる指針」を全文読み上げ、事業所でも対応できる内容などを丁寧に説明し署名同意を得ている。現在、往診医と連携できる訪問看護師の配置や看取りに関わる職員配置も考慮しながら看取り介護に向けての体制作りを図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルの設置と全職員への周知を図っている。また、開所時には普通救命講習を受講して頂いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を一度開催したが、地域住民の方には参加はしていただけなかった。訓練も一度しか行っていないため、職員も不十分かと思われる。今年度は、年2回の訓練を実施していく。	訓練実施計画に基づき、1階・2階職員の連携による初期消火・通報・避難誘導の消防訓練を全入居者・職員が参加し実施している。運営推進会議に出席した家族・自治会長など地域住民も見学をしている。2階の入居者はエレベーターホールに待機し順番にホーム外に誘導するなど実行可能で実践的な訓練が行われている。「いざという時の防災対策マニュアル」や「防火用自主点検票」が整備され対策が図られている。	事業所に近い職員を優先した「夜間対応緊急連絡網」を使つての夜間召集訓練の実施が望まれる。夜勤対象職員が2名のペアになり夜間想定避難訓練を体験しておくことも望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の状況や状態に応じた声掛けをしています。排泄や入浴などの支援の際には、プライバシーに留意したケアをしています。	入居者一人ひとりの好みに合わせて苗字もしくは名前に「さん付け」をして声かけを行っている。入居者が好まない言葉づかいなどは入居時に家族から聞きとり職員間で周知し対応している。トイレや脱衣室・浴室では入居者の羞恥心に配慮したさりげない見守りを心がけている。新人職員には接遇研修やプライバシー研修が実施されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出先や外食先を選んで頂き実施しています。また、買い物に行き、好きな物を選別して購入する機会を設けるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、個々の生活リズムや意思を尊重し、入居者様の流れに業務を合わせていくように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洋服を選んでいただけるよう支援しています。毎月の理髪や染髪なども希望に沿って予約をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛付を行っていただく方や野菜洗い、味付けの手伝いなど、個々に合わせた支援をしています。男性は自分の分だけでなく、同席の方の分も下膳して下さる方もいます。	入居者の力に応じてジャガイモの皮むきや盛り付け・下膳などを手伝っている。入居者同士が声かけをして手伝うこともある。視覚的な食事の楽しみを感じてもらうために出来る限りそのままの料理の形で提供している。入居者のレベルに合わせて食形態の変更も行っている。箸を使って自分の力で摂取することにも力を入れている。敬老会や誕生会などの行事では赤飯や入居者と一緒に作ったピザなどで食事を楽しんでいる。男性・女性別にすし店やレストランでの外食や入居者の希望に応じてラーメン店・和食レストランへの個別外食支援も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の確認に努め、不足しがちな方は家族と相談し好みの物や高カロリーゼリーなどで低栄養にならないよう対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事ごとに歯磨きを行っていただいています。自身で仕切れない方は状態に応じた介助を行っています。		

6/8

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた対応で支援しています。尿・便意のあいまいな方でも、時間を見計らいトイレへの声掛けをしています。	座位が保持できる入居者は出来る限りトイレでの排泄を心がけている。排泄チェック表を活用して3時間以上の間隔を空けないように声かけをしている。食事前後の声かけによるトイレ誘導も行っている。移乗などの身体介助研修を実施し安全な排泄支援が図られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の健康管理表で管理し、便秘傾向の方は水分量や運動などに注意しています。状況により、往診医との下剤の調整も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の状況に合わせて入浴を勧めています。自ら希望される方は、希望時に入浴していただいています。	入居者の希望する時間帯にいつでも入浴できるような体制をとり、週2回以上の入浴を楽しんでいる。身体的特性に合わせてどの方向からも入浴可能な可動式浴槽やシャワーキャリーなど安全性を考慮した浴室が整備されている。入浴を好まない入居者には、居室での着替えを脱衣室で行うことにより、自然に浴室へ誘導し浴槽での入浴につなげている。職員と一緒に銭湯へ行き、入浴の楽しさを味わってもらうなどの支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体力、基礎疾患との兼ね合いを考慮し休息の時間とをいただいています。居室の温度調整や照明、パジャマへの更衣などをしていただく事で安眠を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰がどの薬を何錠服用しているか、薬の効能や目的などを薬剤情報で確認するよう周知しています。内服薬変化時は、理由と目的を明確に伝え状態の変化の有無などを記録し申し送るよう声かけしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	晩酌や喫煙も適量を決めて楽しんでいただいている。裁縫の好きな方には、衣類のほつれや雑巾縫いを行っていただいたり、畑仕事の好きな方には野菜作りや草取りなどを一緒に行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物など近場へは希望時にすぐ対応するようにしています。誕生日など特別な日の外食や外出は家族と協力し個別の対応もしています。	天気の良い日は週2～3回、職員が声かけをして近くの公園への散歩を楽しんでいる。体調に合わせてホーム内の菜園やテラスなど戸外に出て外気に触れるように努めている。近くのスーパーへの買い物や馴染みの理髪店・カフェなどへの個別外出を行っている。誕生日など入居者と家族の外出時には、希望にそって職員も同行するなどの支援を図っている。ドイツ村イルミネーション見学や初詣などの季節ごとの外出行事も良く実施している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の状況によって、買物先での支払いが安全に済ませられるよう見守っています。		
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人に頼まれた手紙を家族に郵送したり、家族からの手紙をお渡ししています。電話についても、事前にご家族に了承を得て支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の清潔や、湿度・温度には注意するよう職員へ声掛けをしています。季節に合わせた掲示物や装飾物で季節感を味わっていただけるようにしています。	日当たりの良いリビングには明るい色彩の椅子とソファが配置され入居者が落ち着いて過ごせる雰囲気がある。入居者と職員が一緒に作成した節分のお面や輪つなぎ、外出行事のスナップ写真が掲示されている。廊下には手すりを使って歩きやすい位置に矢印を貼るなど入居者の立場に立った細かい配慮がなされている。職員は手すりの消毒やリビング・廊下の掃除に努め清潔な環境づくりを心がけている。入居者が職員と一緒に掃除を手伝っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士で談話や食事、レクを楽しめる席になるよう配慮しています。ソファで一人でテレビをご覧になる方や、昼寝をされる方などもおられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、使い慣れた物を持ってきていただくよう声掛けはしています。状態によって、家具の配置なども変更し、居心地や安全への配慮をしています。	使い慣れたタンスや椅子が自由に持ち込まれ、家族の写真や趣味の作品などが部屋に飾られている。ベッド使用かフロアに布団を敷くかは入居者の希望に合わせて対応している。これまでの生活習慣に合わせてベッドや家具を好きな位置へ移動するなどの支援を行っている。帽子や手提げかばんは、備え付けの壁掛けハンガーにかけられ混乱せずに持ち出せるように配慮している。布団干し・シーツ交換・居室清掃・温度・湿度の管理などの支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを使用し歩かれる方は、手すりを使用しやすいよう歩く位置を矢印で示しています。自室を覚え、自由に出入りできるよう名前を付け認識を促しています。トイレや浴室は昔からあるマークで示しわかりやすいようにしています。		